

私は小山台高校に入学した時、一つの夢を持っていました。それは、「今までにないくらいに充実した高校三年間を過ごす」という夢です。私のこの夢は、叶いました。

入学後すぐ、進路指導の先生方に共通テストまでの日にちを教えられ、毎日小テストに追われ、単語帳を片手にお弁当を食べました。定期テストが終わると、小山台の醍醐味、学校行事が待っています。朝から放課後まで、一生分聞いたのではないかと思うほど校歌を歌った合唱コン。夏休みにもかかわらず、毎日登校して準備した文化祭。団長団の気迫に圧倒されながらも、一致団結して競技に取り組んだ運動会。はじめは混乱しましたが、今となっては私たちの大切な、大好きな思い出です。ホームルーム終了後走って向かった班活動では、勉強の憂さを晴らすように練習に打ち込み、自分の好きなことをとことん追求しました。息つく暇もなく、矢継ぎ早に過ぎていった毎日は、つらい時もありましたが、文字通り充実した楽しい日々でした。

三年生になったとき、先輩方の卒業式に参加できず、登校もできない状態で、三年生になった実感がわきませんでした。共通テストに変わるという不安と、先が見えないという不安につきまとわれました。班活動の引退試合は中止となり、くすぶった思いがいつまでも残っていました。土日に関係なく毎日通っていた小山台に通うことも、毎日顔を合わせ、たわいない話で笑いあっていた友人に会うことも、個性に溢れた先生方の授業を受けることもできず、ただひとりぼっちで勉強する日々が、本当にきみしく、つらかったです。そんなとき、先生方の応援メッセージや、友人からの一緒に頑張ろうという言葉が、私を救ってくれました。楽しみにしていた最後の学校行事が中止になり、何かに打ち込める場所が勉強しかなかった時も、落ち込んでどうしようもなくなった時も、いつも誰かの存在に、誰かの言葉に励まされました。そんな周りの人の存在の有難さに、私はこの状況を経験して改めて気が付きました。たとえ直接会えずとも、言葉を交わさずとも、自分と同じ境遇の仲間がいること、自分のそばに感じられる誰かの存在があることが分かったとき、人は救われるのだと思います。

先生方、どんなにお忙しくても、いやな顔一つせず、私たちに寄り添い、励ましてください。本当に有難うございました。先生方が私たちのありのままの姿を受け入れてくださったお陰で、私たちは安心して毎日を過ごすことができました。そして、どんなに苦しい状況にあっても、自分の夢を追いかけ、それを大切にしよう、と、全力を尽くすことができました。事務の方々、清掃をしてくださる方々、司書さん方、私たちの学校生活を支えてくださって、有難うございました。皆さんのおかげで、私たちは何不自由なく、気持ちの良い学校生活を送ることができました。

在校生の皆さん、直接会って言うことはできませんが、班活動や行事で、私たちと一緒に活動してくれて、有難うございました。皆さんは、私たちの自慢の後輩です。そしてどうか、

97年という長い小山台の伝統を大切にしながら、今日の情勢に適う小山台を作っているって下さい。皆さんにとって小山台での生活が楽しく充実したものとなることを願っています。

73期の皆さん、ここまで一緒に小山台生として過ごすことができて、私はとても幸せです。この三年間の学校行事も、当たり前前の日常も、この314人だからこそ実現できたと思っています。会えない日が続いても、みんなの存在があったから、ここまでやってくることができました。この上ない、沢山の楽しい思い出を有難うございました。

家族の皆さん、小山台高校に通わせてくれて、有難うございました。勉強と班活動に追われる毎日を、美味しいごはんや温かい言葉で支えてくれたおかげで、学びの深い三年間を過ごすことができました。最後の一年間は、まるで自分が受験生であるかのような緊張と心配の日々だったと思います。そんな中でも、私たちを一番近いところで見守ってくれたことに、心から感謝しています。

こんなにも恵まれた環境の学び舎を、私たちは今日卒業します。どんな三年間よりもはるかに濃い、充実した時間を過ごした小山台生活の中で、私は新たに夢を見つけました。それは、「世界の人々の役に立つこと」です。私はこの三年間で、自分がどれほど周りの人に支えられているのか、助けられているのかを実感しました。そして、誰かの存在や誰かの言葉がもたらす、人への影響の大きさを知りました。私たちの周りにも、世界にも、助けを求め人々がたくさんいます。中には、声にならない声もあると思います。今度は私が、その声を聴き取り、自分の周りにいる人、ひいては世界の人々の精神的な支えとなって、少しでも助けになりたいと、強く思います。

これから先の未来でたとえどんなことがあっても、小山台での三年間の生活から学び得たように、自分の夢をあきらめず、まっすぐに突き進んでいくことをここに誓い、お礼の言葉と致します。

令和三年三月十九日

卒業生代表 松岡満彩子